

整理番号	4-3	事務事業名	バス利用環境改善事業		作成部署	企画財政部 まちづくり推進課		電話	内線 770
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	市川 洋一	課長職名	菅原 直臣	作成日	平成17年6月	
事務事業開始年度	平成14年	根拠法令等							
〃 終了予定年度									
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	高齢者幼児を対象として低床バスの導入を促進しているが、バス事業者が現有のバスに対し補助ステップの導入に対し国に補助申請していることから採用となれば市も協調して補助しなくてはならない。								

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力あふれるまち		(第 5 章)
	節	道路と交通		(第 3 節)
	施策	人にやさしい道路・交通		(第 3 施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	高齢者、障害者、幼児		
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	バス利用の安全性及び利便性の向上を図る。(特に高齢者、障害者、幼児がバスに乗降する際の負担を軽減する)		
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等)の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	平成14年度、市内を運行するバス車両(10台分)において補助ステップの設置に要する経費の1/10以内の補助を行い10台について装備された。	
		17年度	バス事業者から平成15年度から、市内を運行する車両に対し補助ステップの導入計画がないことから事業が中断している。(予算については計上していない)	

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源				
	合 計	0	0	0	0
人 件 費 (概算)	人 数(年間)	0.00			
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	0	0	0	0
総 事 業 費 +	0	0	0	0	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	必要とされるバスに対しての補助ステップ導入台数	0台	0	0	0
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	年次計画における導入予定台数	14台			
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)					

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等 補助ステップの導入は、バス事業者の整備計画によるところが大きく(事業者負担整備費の6/10を越える)市において導入促進に限度がある。(バス事業者の車両の更新計画において、補助ステップ導入の意向は少ない)今後バスの更新時期にあつては、新車(低床バス)導入に補助等の要求がされるものと思われる。補助ステップ導入事業によるバス利用環境改善事業は終焉に近づいている。

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	補助ステップの設置が必要なバス車両に整備を行う事業者に対しての補助となることから改修を強制することができない 補助率については事業者の利用者へのサービスのことを考慮すると妥当な範囲。	バスの更新時に新車購入に対し補助制度の有効利用を検討する。
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	高齢者の比率が大きくなるとともに、自動車の運転を止める方が増えることからバス利用する方に対する安全性、利便性の効果は向上する。	バス更新時において低床バス等当初から装備のある車両を購入させる。
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	バス更新時において低床バス等当初から装備のある車両を購入させる必要がある。	新車購入に対する補助の導入は、補助ステップよりも金額的に多額になることから、検討に当たっては、計画的な執行が望まれ要綱等の整備も必要となる。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない		

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	冬期間において補助ステップの動作環境に問題がある。(除雪、凍結等)	既存のバスに装備する現在の補助ステップには装置の性能に限界があることから、バス更新時において低床バス等当初から装備のある車両を購入させる。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	1/10で整備可能であれば効率は良いと思われる。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	低床バス導入の誘導を進めるとともに、補助ステップ補助制度については当面継続していくが、バス事業者の意向や国の補助制度の状況に留意し、今後事業の動向を見極めていく。
【2次評価】	判定	
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり